

# グリーン四国

四国森林管理局

高知市丸ノ内1丁目3-30

TEL 088-821-2000

FAX 088-821-4834

ホームページアドレス <http://www.rinya.maff.go.jp/shikoku/>

電子メール [shikoku\\_soumu@rinya.maff.go.jp](mailto:shikoku_soumu@rinya.maff.go.jp)



四国山の日

No.1071 2009年6月号

## 「工石山(赤良木園地)に木造展望台完成」

嶺北森林管理署管内の工石山レクリエーションの森に高知工業高校建築学科の生徒がヒノキの展望台を作製しました。展望台から高知市街地や太平洋の眺めを楽しんだり、休憩所として利用できます。

【詳細は4頁以降に掲載】



展望台完成記念



第1回技術開発委員会

六月五日、四国森林管理局において、今年度一回目の技術開発委員会を開催しました。技術開発委員会は、森林生態学、林木育種、遺伝資源、民有林管理経営の専門家等外部委員で構成されています。今回は平成二十年度に実施した技術開発課題の調査結果等とそれらを踏まえた二十年度の技術開発実施計画について意見を伺いました。

委員会は、「天然林におけるスギ天然更新技術の確立」(安芸署管内)をはじめ九課題と、平成二十一年度を初期として新たに策定する四国森林管理局技術開発目標について審議を行いました。

委員から①ニホンジカ等の生息地周辺では、ニホンジカ等との共生(被害を受ける前提で)を念頭においた試験地の設定も必要ではないか、②モミ・ツガ等の天然更新試験地の設定について、モミ・ツガ等の更新の状況が思わしくないことから、人為的ギャップ(モミ・ツガ等の稚樹が発生、成育しやすくするため林内に人手を加えて作る一定の空間)による調査プロットを追加してデータを蓄積していくという意見等が出された一方、現状の自然ギャップ(倒木や枯死により明るい環境が林内に生じた空間)調査プロットで更新の推移を見守るべきではないかという意見も出されました。

今回頂きましたこれら貴重な意見等を踏まえて今後の試験地設定のあり方などを検討していくこととしています。

技術開発課題に貴重な意見を  
第一回技術開発委員会を開催

〈指導普及課〉



治山・林道工事コンクール  
平成二十年度の受賞者表彰式

〈総務課〉



「平成二十年度治山・林道工事コンクール」の受賞者の表彰式が五月二十二日、高知商工会館で行われ、次の方々が受賞されました。

◎四国森林管理局局長賞表彰

〔治山部門〕

◎多田工業(株)

代表取締役

多田 裕

◎(株)山岡組

代表取締役

山岡 保利

◎明治建設(有)

代表取締役

山中 巨司

◎高大建設(株)

代表取締役社長

山崎 一志

また、二月九日に林野庁において、表彰を受けた方々の披露も同時に行われました。

◎林野庁長官表彰

◎湯浅建設(株)

代表取締役

湯浅 雅文

◎林野庁長官感謝状

◎拓明建設(株)

代表取締役

永井 将司

「嶺北材ブランド化協議会」

林野庁長官感謝状

贈呈される

国民の森林づくり推進功労者

〈総務課〉

五月九日、十日、東京都日比谷公園で開催された「森林の市」で、国民の森林づくり推進功労者として当局から推薦しました、「嶺北材ブランド

化協議会」(会長 田岡秀昭氏)が林野庁長官感謝状を贈呈されました。

地元の製材業者等で構成されている同協議会は、国有林材を含む地元の木材を製材工場であらかじめ基本構造(柱や梁等)をプレカット工場加工し、住宅キット「れいほくスケルトン」として商品化しています。

この住宅キットを、建築現場まで直送して現地を組み立てる方法で、一棟分(約一〇〇㎡)当たりの木材価格が一〇〇万円と価格を明確にし「国産の木材は高い」というイメージを払しょくしました。

これにより、この住宅キットで家を建てたいと言う方の





声が、県外を中心に高まり、今後、一年間に一〇〇棟の販売が計画されており、別の地域でもこのような取組が広がることが期待されます。

こうした国有林材を含む国産材の需要拡大、安定的流通の確保への貢献していること、また、林野庁の「農林水産物等海外販路創出・拡大委託事業」の一〇団体の中の一団体として、今年二月に韓国ソウルにも住宅キット「れいほくスケルトン」を出店し、海外へ向けての国産材の需要拡大にも貢献していることなどが評価されたものです。

シンジメズ (10)

地

域の

声

### 森林ボランティア団体

「森の応援団・さんりん倶楽部」

高知県山林協会 永野 俊彦



森林ボランティア団体「森の応援団・さんりん倶楽部」は、平成一七年四月「森林保全ボランティア団体」として十二番目に登録され、今年四月で設立四年目となりました。

「森の応援団・さんりん倶楽部」とは、間伐等の森林保全活動を通して会員の森林ボランティアの必要性と理解を深め、森林・林業の普及啓発に努めることを目的に設立された、社団法人高知県山林協会の役員全員四名で構成されています。

本倶楽部では、発足当時から県立障害者スポーツセンターのテニスコートに隣接する竹林整備に取り組んでいま

す。コート東側にモウソウ竹が繁茂し日光を遮ることや、コートにササの葉が落ちるなどの声が利用者から相次いだことから、本倶楽部が一役買うことになりました。

今年で五回目となるこの活動は、四月一八日に実施しました。早朝からメンバー十名が集合し、草刈機三台、チェーンソー三台を用意して作業に取りかかりました。竹林間伐を四年間つづけているのでモウソウ竹の繁殖力も弱くなったように思います。その反面、地面には太陽光が降り注



四国山の日賞表彰式

いることが評価され「四国山の日賞、森林整備部門」を受賞することができ、今後の活動の励みとなりました。

ぎ、雑草の勢力が旺盛となり、主に除草作業となりました。四月半ばというのに暑い日差しの中、全員汗だくの活動となりました。今後は竹林を保全しつつ、低木の広葉樹や実のなる樹木の成長を助けるなど、健全な森づくりを進める計画です。幸い林床に目を向けると、ヤブムラサキやヤブツバキ、オンツツジなどの幼木が確認でき、竹林整備の成果があったように思います。

また、昨年十一月には、「四国山の日」のイベントが高知県立甫喜ヶ峰森林公園で開催されました。その中で、本倶楽部は下刈りや、間伐など森づくり活動に計画的に取り組んでいることや、森林整備に必要な技術の習得など人材育成に取り組んで

森林保全ボランティア団体

は、平成十四年の五団体から、現在は五倍以上の二十七団体、約九百人が県内各地において地域と密着した活動を展開しています。これらの団体のネットワーク化をはかるために平成十七年七月に「こうち山の日ボランティアネットワーク」を設立しました。本倶楽部は同ネットワークの事務局となり、ボランティア団体への加入の問い合わせや、チェーンソーを用いたボランティア作業安全研修の実施などをおこない、会員相互の情報交換や行政との連絡調整など、積極的に進めることで森林ボランティア活動を県民のみなさまにより知っていただくことになりました。

今後は、森林ボランティア団体の活動が、山村地域の振興につながり、自分自身で森林整備に取り組む自伐林家を増やすきっかけになればと思っています。山村の活性化、山村再生が図られ、高知の山が元気になる日を楽しみにしています。



八面山頂の高校生達

六月二二日、高知県立四万十高校一年生二四名を対象に、高知県と愛媛県の境にある八面山やっつらやまと滑床山なめとこやま(通称、三本杭)へ登山訓練を兼ねた森林環境教育を実施しました。四万十高校では、例年、自然

「三本杭に登るぞー！」  
「高校生に森林環境教育」  
〈ふれあいセンター〉

各地の  
たより



森林帯についての学習

環境コースの新生入生を対象に、鹿児島県屋久島で自然体験研修を実施しています。今回は、そのための体力養成・登山訓練、自然環境学習をしたいとの学校の意向を受けて実施しました。当日の天候は、前日の雨から回復しつつあるものの、登山口付近(標高一、一〇〇m)は、ガスが立ちこめ肌寒く、生徒は「寒い寒い」と平地との温度差に驚いた様子でした。しかし、生徒もこの日を楽しみにしていたとのこと、山の空気を吸い込んで元氣よく登山を開始しました。登山道では、職員から樹木の名前や特徴、ニホンジカによる樹木の剥皮害についての説明を受けながら登って行きました。ブナの群生林では、植生が四国南西での限界地域であるこ

と、稜線を挟んで一つの山にありながら、温帯林の滑床側と暖帯林の黒尊側がある珍しい山であることなどを説明しました。また、今回の森林環境教育にあたっては、当センターの「滑床山での自然再生事業」等の資料を学校に送り、学習してもらっていたことから、現地では自然再生の取組みの必要性等がより理解できたようです。最後に生徒代表から、「今回の登山を通じ、森林についているような体験や学習ができました。自然再生も重要な取組みであり大切さも理解できました。屋久島では、今日の体験を生かしたいと思います。」との感想があり、ふれあいセンターも学校の意向に沿えることができました。

工石山にヒノキの  
展望台が完成  
〈嶺北森林管理署〉

六月十一日、当署管内の自然休養林であり多くの人々に親しまれている工石山レクリエーションの森に高知県内の国有林から産出したヒノキによる展望台が完成しました。工石山には森林環境教育で訪れる小学生が多いため、登山口から五〇分ほどの赤良木園地周辺に小学校低学年が利用

できる新たな施設が求められていました。

一方、高知工業高校では、建築科のカリキュラムにおいて生徒に建築技術を習得させるため、実習の中で木造の建築物を製作しており、これまで手がけた高知城の観光案内所などの作品が木材の良さをPRしていることが分かりました。

これを知った工石山レク森の関係者が、木造展望台の製作を高知工業高校に依頼していたところ、このほどヒノキの香りと木のぬくもりが溢れる展望台のお披露目となったものです。

展望台の製作にあたっては、四国森林管理局が材料となるヒノキの柱や板を提供、高知工業高校建築科の三年生十六名が力を合わせ、設計から継手・仕口部分の加工及び仮組み、基礎や柱・梁部分の設置



作業、床板・腰板の取り付け、金物による補強などの工程を経て完成に至ったものであり、高校生にとって大きな自信がつく機会となりました。

赤良木園地での組み立て作業は雨にたたられ続きで、生徒たちは寒さに震えながら、水分を吸って膨張した木材の組み立てに格闘するなど、苦労がありました。展望台内側へ製作に携わった生徒と教員の氏名を彫り込んだ看板を設置し、最後は完成した展望台の前で記念写真を撮影。笑顔で成果を満喫していました。

展望台の大きさは、一階床の高さが地上から約三m、二階部分の床面積が約八㎡の本格的なもので、工石山を訪れる登山者や森林環境教育でレク森を利用する児童・生徒のみならず、高知市の市街地や太平洋の眺めを楽しんだり、お弁当を広げる休憩所として使われることになりました。なお、今後の管理については、工石山レクリエーションの森管理運営協議会で行うこととしていきます。



親子で写真立て作り挑戦

〈徳島署〉

五月二十二日、徳島市ふれあい健康館内の親子ふれあいプラザからの要請を受け、親子約三〇組を対象に木の枝で作る動物を使った写真立て作りの木工教室を開催しました。

当日は当署職員が、材料が徳島県産のスギやサクラであることとを説明した後、ボランティアグループと、徳島水源林整備事務所の職員など九名のスタッフの助けのもと、製作に取りかかりました。

子どもたちは木の枝でイヌやクマやパンダがで上がることに目を輝かせ、マイ写真立てを動物や木の実で思い思いに飾り

付けました。

細かい作業は難しかったようですが、スタッフの力もかりて、全員時間内に作品を完成させることができて、「次は違う動物も作りたい、早く家族に写真立てを見せたい。」という声が聞かれました。

みんなの力で枯れた

ササ原に緑の再生を

〈高知中部署〉

五月三十日、当署や「三嶺の森をまもるみんなの会」の主催により、三嶺山系においてニホンジカの食害から森林を守るための作業が行われました。

今回で八回目となるこの作業には、香美市、香南市、南国市の各市長をはじめ、総勢百四〇名の参加があり、三嶺の環境を守る取組に対する関心の深さがかがわれました。

作業内容は、標高千七百mの稜線部の枯れたササ原にネットの柵を張ることと、登山道の周辺で、一本一本の樹木にネットを巻き付けることです。

参加したみなさんはとても熱心で、しかも手際よく作業を進められ、おかげで、八箇所の柵の設置と、樹齢二〇〇年を超えるモミの木など三八八本に



八班に分かれての防護柵設置作業

ネットを巻き付けることができました。

これまでの作業を合わせて、この稜線部のササ原には、周囲延長百mの柵が十六箇所設けられたことになりました。

昨年の作業で設置した柵の中では、植物の小さい芽が出始めており、一面枯れていたササ原のあちら、こちらで今年の夏頃には、再生への足がかりを得た山の表情が見られるものと思います。

早朝から午後三時頃までかけて、作業を行った皆さんは、三嶺山系の雄大な景色を満喫しながら全員が無事に山を下りました。

三嶺山系に登られた時には、ネットの効果が遠方からでも確認できますので、是非ご覧ください。

三嶺清掃登山

〈高知中部署〉

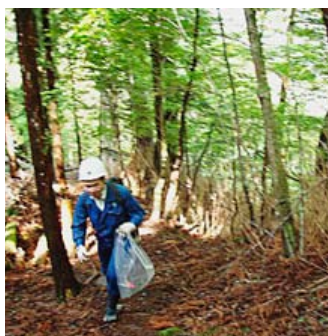
五月三十一日、「三嶺を守る会」の主催により当署も参加した第三四回清掃登山が三嶺山系において行われました。

当日は九団体と一般の個人参加を合わせて八六人が九コースに分かれ、コース沿いで二ホンジカによるササ食害の調査と併せてゴミ回収などを実施しました。

当署が担当したコースは、西熊林道のゲートから葦生越まででしたが、登山者のマナー向上によりゴミはほとんどありませんでした。

しかし、一部の避難小屋に放置されたゴミなどにより全体で九〇キロと昨年度より多くのゴミが回収されました。誰もが気持ちよく利用できる小屋となるようゴミの持ち帰りをお願いします。

清掃登山は毎年この時期に行われています。ゴミの回収量



山嶺清掃登山に当署も参加

がゼロになるよう、山に入る一人一人が四国の美しい山々を守っていききたいものです。

【お知らせ】

「CO<sub>2</sub> CO<sub>2</sub> CO<sub>2</sub>」  
歩いてエコして  
健康!

〈職員厚生課〉

高知県では「よさこい健康プラン21」を策定し、「日本一の健康長寿県」を目指して「1に運動 2に食事 3に禁煙 最後はクスリ」をキャッチフレーズに、地域や職場で取り組むこととしていきます。

当局においても、高知県健康づくり課より依頼を受けて、高知県民より募集したバナー(健康標識)を階段に貼り職員の意識の高揚に努めています。

